

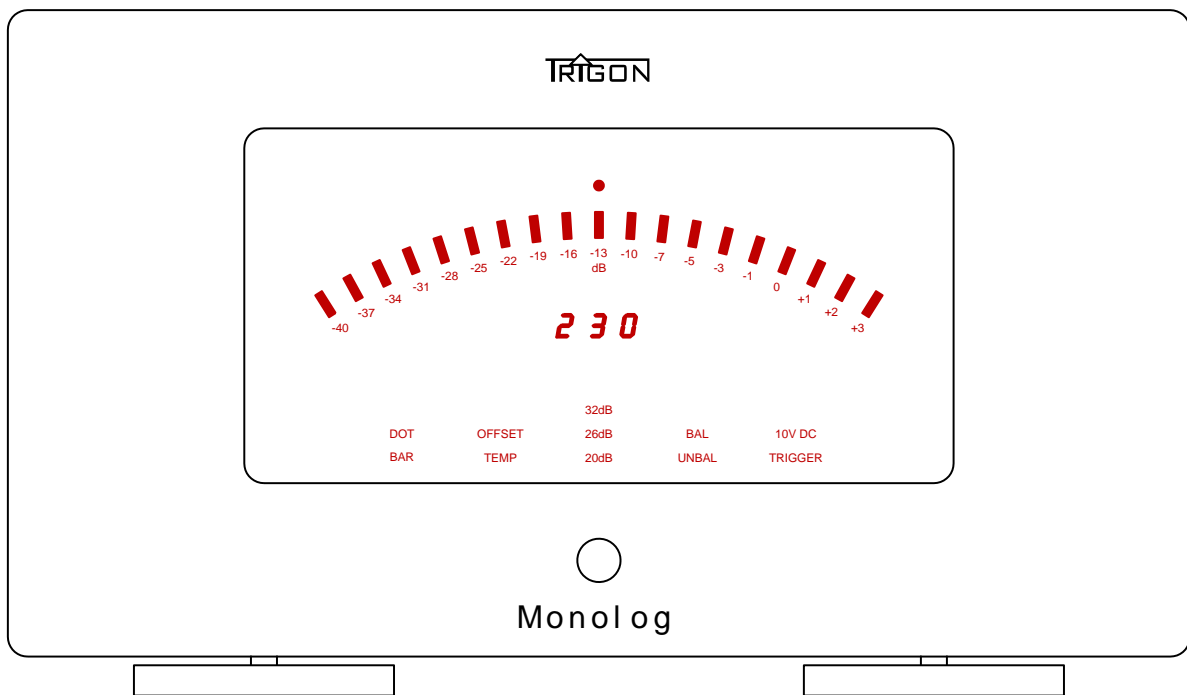
TRIGON

ELEKTRONIK GMBH

OWNERS MANUAL

MONORAL POWER AMPLIFIER

MONOLOG



目次

- 1 はじめに

- 2 特長
 - 2.1 安全な取り扱いについて
 - 2.2 設置について
 - 2.3 保証とサービスについて

- 3 セットアップ
 - 3.1 前面パネル
 - 3.2 背面パネル端子図

- 4 困ったときは
 - 4.1 ... 本体の電源が入らないんだけど？
 - 4.2 ... 音が出ないんだけど？
 - 4.3 ... ハム音が聞こえるんだけど？

- 5 テクニカルデータ

※ 必ずお読みください

1 はじめに

この度は、TRIGON のフラッグシップ製品となるMONOLOGモノラルパワーアンプをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

本製品は、最新の精密技術を実現するため厳重な品質管理のもとに製造されております。本機をご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。また本取扱説明書は、なくさないよう大切に保管して下さい。

2 特長

我々のフラッグシップ製品は、本物の音楽再生をリスニングスペースへお届けします。このコンポーネントは、TRIGONがパフォーマンスと技術、ともに最高水準の位置に達したことを示します。アルミニウムとクロム、革新的な回路とデザインのエレガントな交わり、最上級の性能と品質は、我々のプレミアムライン製品の特質です。

MONOLOGと名付けられたモノブロックパワーアンプは、いかなるスピーカーに接続されても、音楽が持つ深遠かつ壮大な力を余すことなく再現するための十分な力を提供します。そのパワーハンドリング能力は、音楽信号の土台であるベース部分と最大限のフルパワーを完全にスピーカーへ送り込み、従えます。

また、モノブロック構成とすることで、三次元的な音場の広がりや深さ、そしてホログラフィックなステレオイメージを確実にします。MONOLOGの妥協しない回路設計アプローチは、フルスケールのオーケストライメージをたやすく表現できるでしょう。

ハイパワーをスピーカーに送りこむと同時にそれに負けない制動力を持ってスピーカーを従えダイナミックに音楽を吹きあげる。それと同時に微細な音楽のテクスチャーを丁寧に描きわけて音楽のリアリティを表出する、これらのことはMONOLOGにとってはたやすいことなのです。

MONOLOGを手にしたお客様は今すぐにも音楽を堪能されたいとお思いでしょうが、その前に本取扱説明書に目を通してください。ここには、MONOLOGを理解し、より深くその本質へたどりつくためのヒントも記されています。TRIGONチームは、お客様がMONOLOGパワーアンプを手にしていただくことでより多く、そしてより深い音楽の喜びと満足を得ることがかなうことを願っております。

Rainer Reddemann(ライナー・レッデマン/技術最高責任者)

-
- ◆ MONOLOG は、屋内使用のための高性能パワーアンプです。このパワーアンプはモノブロックとして構成されており、従って、ステレオ再生のためには通常 2 台の使用が前提となります。
 - ◆ モノラルアンプにおける長所の 1 つは、使用するスピーカーの近くにアンプを設置することが可能となるため、使用するスピーカーケーブルを短くできる、ということが挙げられます。スピーカーの入力端子が低い位置にある製品であれば、より短いスピーカーケーブルの使用が可能となるでしょう。そのためにはプリアンプからパワーアンプへのラインケーブルを長くすることになりますが、このことでパワーアンプの力を、よりダイレクトにスピーカーへ導くことができます。
 - ◆ また、物理的に電源回路を含む各チャンネルの増幅回路が分離されることによって再生音のチャンネルセパレーションが向上し、再生時の音響空間を正確に最適化できます。
 - ◆ MONOLOG には、いかなるスピーカーを接続しても音楽再生における十分なエネルギーを安定供給することができるように、2 つの 500VA 級パワートランスと合計 80,000 μ F 以上の大容量コンデンサを装備しています。
 - ◆ 出力段はブリッジトポロジーで設計されています。それは MONOLOG の内部に 2 台の完全に独立したアンプがあることを意味します。入力された音楽情報の正相信号と逆相信号をそれぞれ別のアンプで増幅するのです。接続されるスピーカーは、正逆 2 つのアンプを終端とする「橋」として接続されます。
 - ◆ この構成の長所は、スピーカーユニットの振動版の前後の動きを、各々に独立したパワーアンプで制御できるという点にあります。これによって各々のユニットの正確な動きをコントロールすることが可能となり、より繊細でかつダイナミックなりニアリティの表現が実現できるのです。
 - ◆ MONOLOG の背面には RCA(アンバランス)/XLR(バランス)の 2 系統の入力端子があります。これは「BAL/UNBAL」スイッチによって選択可能です。また、トリガー入力(RJ-45 コネクタ、動作範囲はおおよそ 4-10V の DC)を使用することで、接続された機器間同士の電源を連動で ON または OFF にすることができます。この機能は「AUTO」スイッチで使用を選択できます。

2.1 安全な取り扱いについて

本製品を安全にお使いいただくためにも、下記に記載してあることを厳守してください。

- ◆ 本体を火気のすぐそばや高温多湿な場所に設置しないでください。
- ◆ 本体に激しい振動を加えたり、不安定な場所に設置しないでください。
- ◆ 本体を冷えた環境から暖かい部屋に持ち込んだ場合には、すぐに電源コードを本体に接続しないでください。結露などにより内部の電子デバイスを損傷してしまう恐れがあります。デバイスが室温に温まるまでお待ちください。
- ◆ 直射日光などが当たる場所への設置は避けてください。
- ◆ 液体の入った容器を本体近辺に置かないでください。内部に液体が入った場合、故障、火災、感電の原因

2.2 設置について

開梱する際には、本体に輸送時の破損が無いことをお調べください。万一破損を発見された場合は、お買い上げいただいた販売店もしくは弊社へご連絡ください。開梱後は、本体のほかに下記の内容物が入っているかどうかを確認してください。

梱包物の確認

1. 本取扱説明書
2. 保証登録はがき
3. VOLT電源ケーブル
4. 電源変換プラグ

取扱いに関する注意事項

- ◆ 本体を乾燥した、平らな面の上に設置してください。よりよい音質のためには、しっかりしたラックやベース上に設置することを推奨いたします。
- ◆ 本体周囲には、換気ができるようなスペースを確保してください。
- ◆ ハロゲンランプの中には、ノイズの原因となるものがありますので、なるべく離して設置してください。
- ◆ MONOLOGの近くにはフォノイコライザーやレコードプレーヤーなどの微小信号を扱う装置、もしくはその電源部を設置しないようにしてください。ハムノイズを誘発する恐れがあります。
- ◆ 電源コードと信号ケーブルを近接平行配置するとノイズを誘導することがありますので、なるべく離して配置するようにしてください。距離を確保できない場合は直交するように配置してください。
- ◆ 蛍光灯のON/OFFによるノイズが回り込む恐れもありますので、最低でも1m以上の距離を取ってください。

2.3 保証とサービスについて

正しくお使いいただいているなかで、万一本機が故障してしまった場合は、ご購入日より2年間の保証をいたします。しかし、弊社サービス以外による内部の修正や、シリアル番号、購入日の改ざんなどが認められた場合の保証は認められません。

注意！

※1 RCAピンプラグを外すときには、回さずに真っ直ぐ引き抜くようにしてください。

ピンプラグを回しながら外すと内部配線が断線する恐れがあります。

※2 破損する恐れがありますので、演奏中のスピーカーケーブルの着脱や

スピーカーセレクターへの接続はお止め下さい。

3 セットアップ

本体を箱から取り出した後に、まず付属の電源コードを本体に接続して電源を入れてください。短いパワーアップシーケンス(その間、前面パネルのLED1が点滅します)の後、いくつかのループ音が内部から聞こえると思います。そして前面パネルの表示が点灯したらMONOLOGの準備は完了です。この後に各種動作の確認を行ってください。ソースコンポーネントやスピーカーを接続していないときにあらゆる操作を行っても、本体に損傷を与えることはありません。

注意！！！！

MONOLOGに接続する装置は、MONOLOGも含めて接続の間は電源をONにしないでください。

RCAケーブルを接続するときには、通常HOT側の端子が先に接続され電氣的に非常に不安定な状態になるため、そのときに装置の電源がONになっていると、スピーカーや装置へ損害を与えるレベルの大きいノイズが発生することもあります！ MONOLOGは強力な装置ですので、簡単にスピーカーを損傷してしまうことがあるかもしれません！！！！絶対に電源をONにした状態で接続を行わないでください。

スピーカーケーブルを接続する前には、両端の+と-が内部でショートや断線したりしていないかどうかのチェックを行ってください。

MONOLOGがパワーアップを行うとき、内部の防護回路は出力端子間のインピーダンスをチェックします。このとき、値が 2Ω 以下の場合にはパワーアップシーケンスを停止し、前面パネルのLED1が点灯します。この場合はMONOLOGの電源を即座に落としてください。そして、スピーカーケーブルがショートしていないかどうかチェックしてください。どこにもショートが無い場合には、スピーカーのメーカーにチェックを依頼するか定格を確認してください。スピーカーの定格インピーダンスが 2Ω 以下の場合にはMONOLOGで使用することはできません。

MONOLOGのパワーアップシーケンスが完了して正常に動作を開始した後は、技術的な理由のためにアンプの通常の活動の間、インピーダンスチェックを実行することができません。もう一度電源のOFF/ONを行わない限りインピーダンスチェックを行うことはできないのです。通常動作時に発生したショートはそのままMONOLOGを損傷する可能性があります。

すべての接続が完了して、電源を投入する場合には、常に最初にプリアンプの電源を入れて、プリアンプが通常動作を開始してから、MONOLOGの電源を入れてください。また、そのときにはプリアンプのボリュームコントロールは絞り切った状態にしておいてください。

電源を落とす場合には、プリアンプのボリュームコントロールを絞り切ってから、まずMONOLOGの電源を落として、次にプリアンプの電源を落としてください。

この手順を守らないで先にプリアンプの電源を落とした場合には、電源OFF時のノイズがMONOLOGによってそのまま増幅されてしまい、スピーカーを損傷するおそれがあるからです。

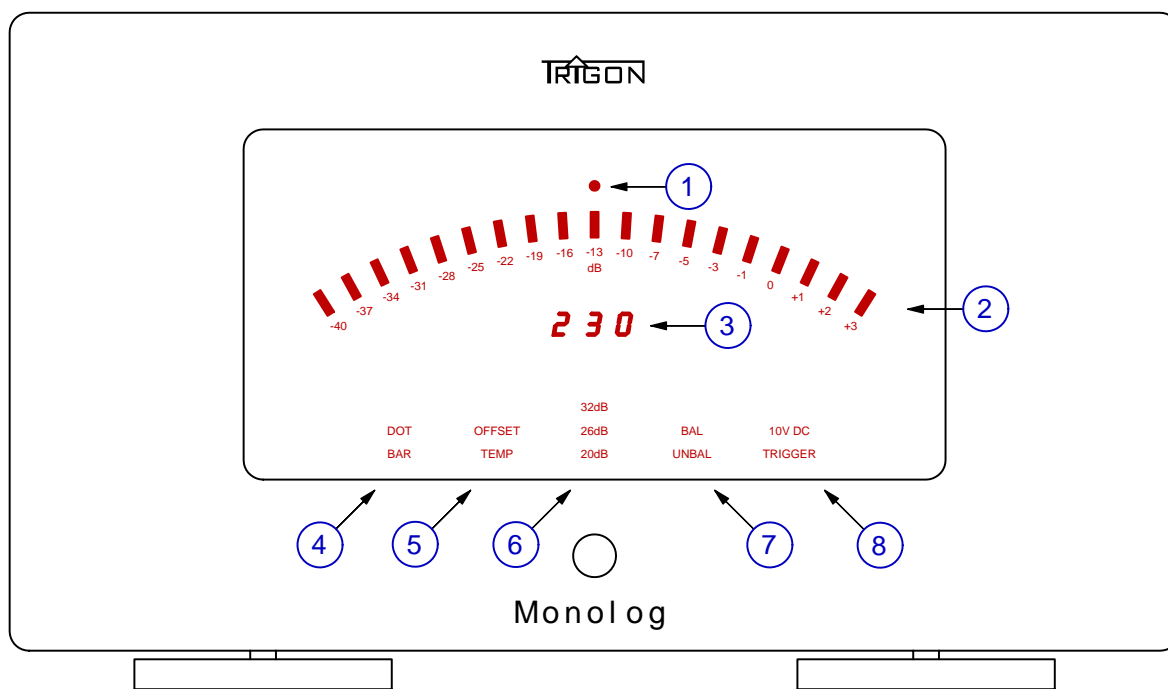
出力リレーの長期にわたる安定性を確保するためにも、プリアンプのボリュームをしぼってからMONOLOGの電源OFFを行ってください。この処置によって、リレーの動作時に無用のスパークが飛ぶことを防ぐことができます。流れている信号のレベルが高いほど、リレー動作時のスパークは強いのです。このようなスパークが飛ぶことで、次第にリレー内の接触抵抗を増やしてしまい、ダンピングファクターが劣化する要因ともなります。

外装のクリーニングには、軽く水をつけて固くしぼった布を使用して拭き取ってください。外装の仕上げを傷める可能性があるため、アルコールや強力な洗剤を使用するのは控えてください。その時には電源ケーブルをコンセントから抜いておいてください。

注意！！

液体がシャーシ内部に入っていないことを常にご確認ください！

3.1 前面パネル



MONOLOGの前面パネルにあるボタンは一つだけです。このボタンでスタンバイ／通常動作を切り替えます。このボタンを押すことで、内部のプロセッサが順番に主電源のリレー解除、起動時の突入電流制限、出力段のリレー解除、というソフトスタートプロセスを制御します。AUTO-POWER機能(3.2: 13 AUTOスイッチ 参照)機能を使用する場合は、このボタンを押す必要はありません。

もう一度このボタンを押すと、MONOLOGはスタンバイモードに入ります。この状態では内部の増幅回路には電力は供給されません。

1 Status LED:

このLEDは、MONOLOGが通常動作しているときに点灯します。もし、起動時を除いて点滅している場合は何らかの故障を示し、出力段のリレーによって切り離されますので再生音は出ません。

・[1]のStatus LEDが点滅すると同時に[5]のTEMP LEDが点灯している場合は、内部の温度が上昇しすぎてオーバーヒート状態になっていることを示します。内部温度が低下して通常動作状態にまで戻ると、ステータスLEDは点灯状態に戻り、[5]のTEMP LEDは消灯します。

・DC検知回路が出力端子にDCが出ていることを感知した場合、[1]のStatus LEDは点滅し、[5]のOFFSET

LEDが点灯します。同時に出力段のリレーによって切り離されますので再生音は出なくなります。この場合、防護回路をリセットするために電源を一度落とさなければいけません。MONOLOGは、およそ10秒後に再び電源を入れることが可能となります。電源の再投入後もLEDの状態が変わらなければ、出力段に何らかの障害が発生した可能性があります。その場合は修理対応の連絡を販売店、もしくは代理店へ行ってください。

・[1]のStatus-LEDのみが点滅し続ける場合は、電源投入時のインピーダンスチェックで出力端子間のインピーダンスが 2Ω 未満の値を検出したことを示します。この場合、スピーカーケーブルがショートしている可能性があります。このとき、増幅回路への電力供給は為されません。

MONOLOGの主電源を落として電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で、すべての接続を確かめてください。

警告！

電源がONにされると、インピーダンスチェックは常に実行されます。このテストには1秒かかります。

そして、通常の活動の間には再度実行されることはありません。

2 VU METER:

MONOLOGは、現在の出力レベルを示すLED表示によるVUメーターを装備しています(-40dB~+3dB)。LED表示は機械式のレベルメーターよりも遥かに敏捷で視認しやすいので、非常に短いピークでさえも視認可能です。

最も右側のLEDが点灯するとき、入力された信号がMONOLOGの最大許容レベルに達したことを示します。これ以上のレベル増加はすなわち増幅部がクリップすることを示します。この状態では接続されたスピーカーのトイーターを簡単に飛ばしてしまうことが可能ですので、音量調整にはご注意ください。

背面の[9]のVUセレクトによって、VUメーターの動作モードを順番に切り替えることが可能です。一度押すと[4]のBAR LEDが点灯し、棒グラフとして現在の信号レベルを示します。もう一度押すと[4]のDOT LEDが点灯して、ピークレベルが一定時間保持されるようになります。もう一度押すとVU METERが消灯します。

3 AC電圧 表示LED:

ここには現在のAC電圧がおよそ誤差3%で表示されます。電圧測定は1秒間に3回行われますので時時刻刻微妙に変動するかもしれません。背面の[10]のDisplayスイッチの操作でこの表示を消すことができます。

4 VUモード 表示LED:

背面の[9]のVUセレクトの操作で切り替わる、VUメーターの動作モードを表示します。一度押すとBAR LEDが点灯し、棒グラフとして現在の信号レベルを示します。もう一度押すとDOT LEDが点灯して、ピークレベルが一定時間保持されるようになります。もう一度押すとVU METERとこのLEDが消灯します。

5 TEMP/OFFSET 表示LED:

このLEDが表示している場合は、MONOLOGの動作に何らかの障害が発生していることを示します。

・[1]のStatus LEDが点滅すると同時にTEMP LEDが点灯している場合は、内部の温度が上昇すぎてオーバーヒート状態になっていることを示します。内部温度が低下して通常動作状態にまで戻ると、ステータスLEDは点灯状態に戻り、TEMP LEDは消灯します。

・DC検知回路が出力端子にDCが出ていることを感知した場合、[1]のStatus LEDは点滅し、OFFSET LEDが点灯します。同時に出力段のリレーによって切り離されますので再生音は出なくなります。この場合、防護回路をリセットするために電源を一度落とさなければいけません。MONOLOGは、およそ10秒後に再び電源を入れることが可能となります。電源の再投入後もLEDの状態が変わらなければ、出力段に何らかの障害が発生した可能性があります。その場合は修理対応の連絡を販売店、もしくは代理店へ行ってください。

6 増幅度 表示LED (20dB/26dB/32dB) :

背面の[11]のGAINセレクトを押すことでMONOLOGの増幅度を3段階で順番に切り替えることができます。同時に現在の増幅度がLED表示されます。

まず20dBの状態から始めてください。増幅度は最も低いですが、SN比は最高を示します。現在の大部分のプリアンプの出力レベルはこの増幅度で十分なほどに高いので、よほど能率の低いスピーカーを使用しない限りは問題ないと思われます。増幅度を上げればそれに応じてバックグラウンドノイズも増加してしまうのです。

必要な音量が取れないと思われるときには、順番に増幅度を上げながら音質を確認してください。

7 入力 表示LED (BAL/UNBAL) :

この表示は、背面の[12]のBAL/UNBALセレクトで選択される入力を表示します。

切り替えるときには、スピーカーからのノイズを防ぐために一時的に出力リレーによって消音されます。

8 TRIGGER /10V DC 表示LED:

スタンバイから通常動作へ自動で移行するモード(2パターン)が表示されます。モードの切り替えは背面の[13]のAUTOスイッチによって選択されます。

・TRIGGERモード

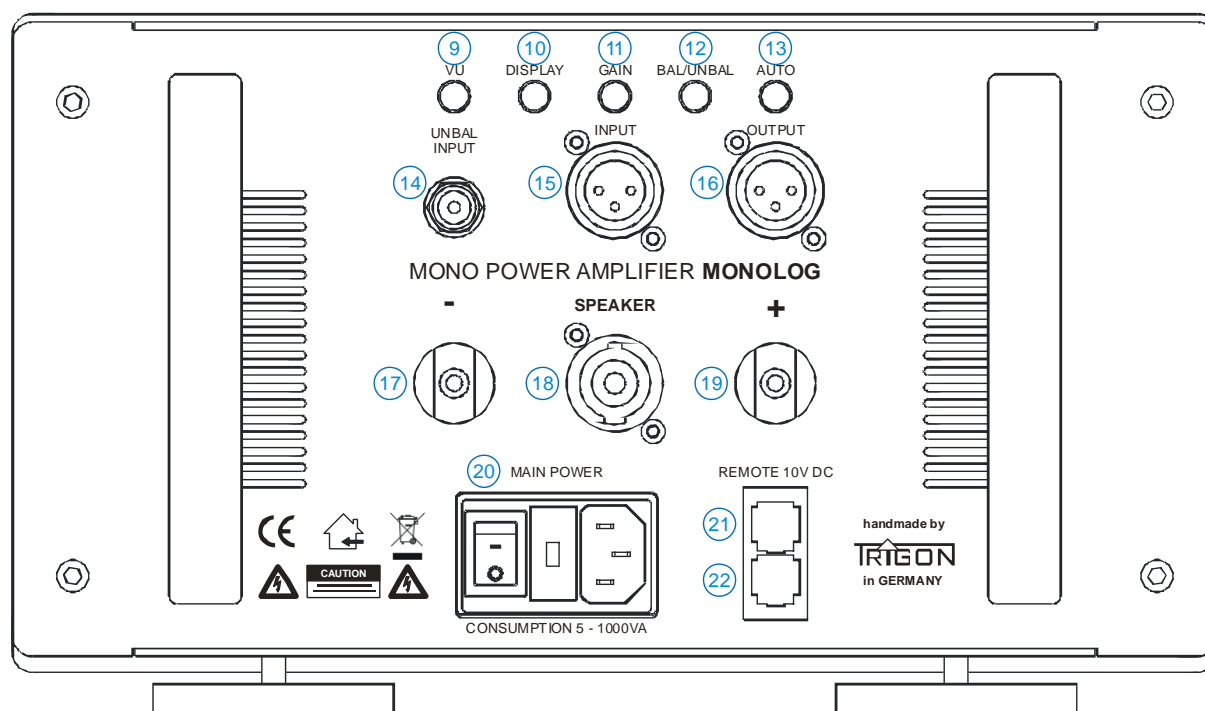
入力端子で一定レベル以上の信号を検知した場合、自動でスタンバイから通常動作モードへ切り替わります。再生しているにもかかわらず入力信号が非常に小さい場合はこの機能が働かないかもしれません、その場合はプリアンプのボリュームを少し上げてください。

・10V DCモード

背面の[21]のREMOTE 10V DC端子と任意の装置間にRJ45ケーブルが接続された状態で、+4V～+10V程度のDCが[21]のREMOTE 10V DC端子で検知されているときにMONOLOGは通常動作となります。DCが検知されなくなるとスタンバイ状態に戻ります。いくつかのプリアンプでこの機能に対応しているものがありますので、そういったプリアンプを使用する場合には、プリアンプの電源とMONOLOGの電源ON/OFFが連動動作できるようになります。

注：AUTOオプションは背面の[20]の主電源スイッチがONになっているときしか機能しません。

3.2 背面パネル端子図



9 VU セレクタ:

このボタンを押すことで前面パネルのVUメーターの表示モードを順番に切り替えます。選択されたモードは、[4]のVUモード表示LEDによって示されます。

10 DISPLAY スイッチ:

このボタンを押すことで前面パネルの表示／非表示を切り替えます。非表示の状態でも[1]のStatus LEDだけは表示します。

11 GAIN セレクタ:

このボタンを押すことでMONOLOGの増幅度を3段階で順番に切り替えることができます。同時に現在の増幅度が[6]の増幅度表示LEDで表示されます。

ヒント: まず20dBの状態から始めてください。増幅度は最も低いですが、SN比は最高を示します。現在の大部分のプリアンプの出力レベルはこの増幅度で十分なほどに高いので、よほど能率の低いスピーカーを使用しない限りは問題ないと思われます。増幅度を上げればそれに応じてバックグラウンドノイズも増加してしまいます。

必要な音量が取れないと思われるときには、順番に増幅度を上げながら音質を確認してください。

12 BAL/UNBAL セレクタ:

このボタンを押すことで、入力をBAL(XLR)/UNBAL(RCA)のどちらかに切り替えます。選択された入力は、入力表示LED(7)で表示されます。

13 AUTO スイッチ:

このボタンを押すことで、スタンバイから通常動作へ自動で移行するモード(2パターン)を切り替えます。選択されたモードは、[8]のTRIGGER/10V DC 表示LEDで表示されます。

・TRIGGERモード

入力端子で一定レベル以上の信号を検知した場合、自動でスタンバイから通常動作モードへ切り替わります。再生しているにもかかわらず入力信号が非常に小さい場合はこの機能が働かないかもしれません、その場合はプリアンプのボリュームを少し上げてください。

※ 無信号状態になってから約5分ほどでMONOLOGがスタンバイになります(ノイズレベルが一定以上の場合はスタンバイ状態になりませんので、ご注意ください)。

・10V DCモード

[21]のREMOTE 10V DC端子と任意の装置間にRJ45ケーブルが接続された状態で、+4V~+10V程度のDCが[21]のREMOTE 10V DC端子で検知されているときにMONOLOGは通常動作となります。DCが検知されなくなるとスタンバイ状態に戻ります。いくつかのプリアンプでこの機能に対応しているものがありますので、そういったプリアンプを使用する場合には、プリアンプの電源とMONOLOGの電源ON/OFFが連動動作できるようになります。

注: AUTOオプションは、[20]の主電源スイッチがONになっているときしか機能しません。

14 UNBAL(RCA) 入力端子:

プリアンプからのRCAケーブルを、この端子へ接続してください。

15 BAL(XLR) 入力端子:

プリアンプからのXLRケーブルを、この端子へ接続してください。

XLR端子のピンアサインは下記の通りです。

PIN1 = Ground

PIN2 = Signal +

PIN3 = Signal -

16 BAL(XLR) 出力端子:

入力された信号をそのままこの端子から出力します。この端子を使用することで、プリアンプの出力が1系統しかない場合でもバイアンプ接続が可能となります。

XLR端子のピンアサインは下記の通りです。

PIN1 = Ground

PIN2 = Signal +

PIN3 = Signal -

17 スピーカー端子(-):

スピーカーケーブルの一侧をこの端子に接続します。

MONOLOGの内部はブリッジアンプ構成となっていますので、一端子は通常のGNDではなく、電位が発生します。そのため、この端子からアンプのシャーシに接続したり、電源アースに接続することは絶対におやめください。また、セミアクティブタイプ(入力はスピーカーケーブルだが、ウーファーのみが独立した内蔵アンプで駆動されるタイプ)のスピーカーを接続することはできません。

警告！！

接続するスピーカーの定格インピーダンスが2Ω以下のものは接続できません。

18 スピコン端子(4極タイプ):

この端子には、スピコン端子(4極タイプ)で処理されたスピーカーケーブルを接続します。この端子は非常に簡単に、かつ確実にスピーカーケーブルを接続できます。ロック機能がありますので、ショートが発生する可能性もまずありません。

この端子には4本の内部ピンがあり、PIN1+とPIN2+はスピーカーケーブルの+側に、PIN1-とPIN2-はスピーカーケーブルの-側に接続されます。

警告！！

接続するスピーカーの定格インピーダンスが2Ω以下のものは接続できません。

19 スピーカー端子(+):

スピーカーケーブルの+側をこの端子に接続します。

警告！！

接続するスピーカーの定格インピーダンスが2Ω以下のものは接続できません。

20 AC電源ソケット&ヒューズソケット:

このソケットに付属の電源ケーブルを取り付けてください。赤い点はACのHOT側を示します。この点がついているほうの極がコンセントでもHOT側であることを確認してください。これは検電テスターで簡単にチェックできます。横のスイッチは主電源スイッチで、これをONにすることでMONOLOGの主電源が入ります。

警告！！

ヒューズを交換するときは、電源ケーブルを取り外した状態で同定格、同サイズのものに交換して下さい。

21 REMOTE 10V DC入力端子(RJ45) :

AUTOスイッチで10V DCモードに設定された状態で、この端子で+4V～+10VのDC電圧を検知すると、MONOLOGは通常動作に切り替わります。検知されなくなるとスタンバイ状態になります。

警告！！

この端子はLANケーブルと同じ端子を使用していますが、ネットワークに接続するためのものではありませんので、ルーターなどからこの端子に接続することは絶対におやめください。

22 REMOTE 10V DC出力端子(RJ45) :

REMOTE 10V DC入力端子(RJ45)に入力された電圧をそのままこの端子から出力します。これによって電源ON/OFFの連動動作を他装置へ受け継ぐことができます。

警告！！

この端子はLANケーブルと同じ端子を使用していますが、ネットワークに接続するためのものではありませんので、ルーターなどからこの端子に接続することは絶対におやめください。

4 困ったときは

4.1 ... 本体の電源が入らないんだけど？

- ◆ 電源ケーブルはMONOLOG、電源コンセント双方にきちんと差し込まれていますか？ご確認ください。
- ◆ コンセントに電圧は来ていますか？ブレーカーが落ちていたりしないかを確認してみてください。
- ◆ 背面の主電源スイッチはONになっていますか？ONになっているかどうかを確認してみてください。
- ◆ 電源ヒューズが切れていませんか？同定格、同サイズのものに交換してみてください。それでもヒューズが切れてしまうならば、販売店か代理店に連絡してサービスを依頼してください。

4.2 ... 音が出ないんだけど？

- ◆ 正しい入力を選択していますか？入力セレクタを確認してみてください。
- ◆ 入力信号はMONOLOGにきちんと届いていますか？届いている場合は、前面のVUメーターに表示されず。VUメーターが振れている場合はスピーカーケーブルの接続をチェックしてみてください。もしくはラインケーブルの接続もチェックしてみてください。音が出なくなることが時折片方のCHのみに起こるならば、ラインケーブルの内部もしくはコネクタ部での接触不良が考えられます。その場合はケーブルを交換してください。
- ◆ 静電気の放電が、MONOLOGとの間にありませんでしたか？冬季などで外気が非常に乾燥している場合、カーペットや衣類などは非常に電荷を溜めやすくなっています。そのときに操作する人間を通して静電気の放電がMONOLOGとの間で発生するかもしれません。
- ◆ この種の静電気の放電はMONOLOGの内部プロセッサに対して 瞬間的に悪影響を与えることがあります。その場合出力リレーの切り替えを停止したり、動作そのものが停止する場合があります。また、MONOLOGを制御しているマイクロプロセッサを破損させます可能性もございますので、ご注意ください。
- ◆ この場合は、一旦背面の主電源スイッチを切って1分ほどそのままにしておき、その後にもう一度電源を入れてみてください。通常、これで正常な動作に戻ります。

4.3 ... ハム音が聞こえるんだけど？

- ◆ ラインケーブルは、確実に接続されていますか？接続部も含めてケーブルをチェックしてみてください。
- ◆ 場合によっては、システム内の複数の装置からの接地でグラウンドループができており、ハムノイズの要因となっていることもあります。これら进行处理することは、いくらかの経験を必要とするかもしれませんので、販売店や代理店へ連絡をとってみてください。
- ◆ システム内にラジオやTVのチューナーやVCR、DVDレコーダー、またはディスプレイがプリアンプに接続してある時にハムノイズが発生する時があります。これはアンテナからの接地が装置間でグラウンドループを誘発するからです。その場合、アンテナの接地を切り離すためのアダプタを途中に接続することで改善ができるかもしれません。これらは非常に安価で、電気店で入手できると思います。

5 テクニカルデータ

| | |
|--------------|--|
| 最大出力 | 650W (4Ω)、400 (8Ω) |
| 入力端子 | RCA入力×1系統、XLR入力×1系統 |
| 出力端子 | バイアンプ用のXLRライン出力 |
| 入力インピーダンス | 47kΩ (RCA/XLR) |
| 入力感度 | 1.2V(増幅度が32dBのとき) |
| S/N比 | -103dB (1W時4Ω) |
| ノイズフロア | -106dB (1W時4Ω) |
| ひずみ率 | 0.03 %未満 |
| 再生周波数帯域 | 0.5Hz-250kHz (-3dB) |
| 残留ノイズ | アンバランス:100μV (A-weighted), 140μV (unweighted) バランス:150μV (A-weighted), 220μV (unweighted) |
| ゲイン調整 | 20/26/32dbで選択可能 |
| チャンネルセパレーション | 80 dB以上 (1kHz) |
| 付属品 | VOLT電源ケーブル |
| 重量 | 23.9kg |
| サイズ(端子含む) | H170mm x W299mm x D464mm |

仕様は改善のため予告無く変更される場合があります。

総輸入代理店

フューレンコーディネート

フリーダイヤル

0120-004884